

### 第3回 青森港長期構想検討委員会 議事概要

日時：令和7年3月21日（金） 13:30～15:00

場所：青森観光物産館アスパム 4階十和田

#### ● 地元経済団体

- 青森港開港400年にまとめられたことは意義深い。
- 青森港のあり方が青森のまちづくりに寄与するように、産業界としても支援していく。
- クルーズ船2隻同時着岸について、構想に盛り込まれたことは心強い。

#### ● 港湾利用者

- バラスト水規制について、漁業者の不安を取り除く活動をしたい。  
【事務局】バラスト水については、船舶が法令遵守しているかを国で確認しているが、今後も漁業者からご意見があった際には、その意見を国と共有したい。
- 洋上風力の基地港湾に関し、秋田では風車のブレードの破損の話があるので、交換用のブレードがストックできる余裕が欲しい。
- 沖館埠頭をバルク貨物専用とすることは、貨物輸送の観点からは望ましい。
- 新幹線の札幌延伸は延期されたが、実現した時点で鉄道貨物輸送が現在より制限される可能性があり、その際に海上輸送で代替することを視野に入れるべき。
- フェリーターミナルの耐震強化岸壁の2バース化、それも船舶大型化を見据えており、国土強靱化の観点から重要な内容であると捉えている。青森港は北海道～本州間の海上輸送の拠点であり、耐震強化岸壁は被災後の輸送の継続性に貢献する。
- 2024年問題を受け、トラック事業者からはドライバー休憩所の設置や、有人貨物車間の混載などの要望がある。ユーザーの声を反映していく必要がある。
- 次世代燃料船導入のための陸上側のインフラについて、船と両輪で検討していく必要がある。
- 客船誘致のためにはタグボートの確保が最低2隻は必要で、1隻では悪天候時の着岸に支障が出る。
- 客船入港が増えると船舶代理店の業務が増えるため、県をはじめ支援の拡充を頂きたい。
- 岸壁の老朽化や野積み場等が不足している状態にあり、これらの対応の明確化が課題である。

#### ● まちづくり団体

- 今後の港湾計画改訂で、長期構想の意見がきちんと反映されることを期待する。
- 世の中の変化のスピードを踏まえ、今後も構想を適宜アップデートし、ソフト面を含め整備をスピーディに進めていくことを期待する。

- 港湾計画改訂においては、まちづくりに青森港をどう生かしていくかの観点から、県だけでなく、ともに発展してきた青森市との連携が大切と考える。

## ● 水先人

- 新中央埠頭北側の浅場が操船上非常にプレッシャーだったが、撤去されることになると操船者は助かる。
- 世界中のクルーズブームを吸収できるよう、早い整備を期待する。
- 青森港の常駐タグボートが1隻体制となるのは非常に問題であり、異常気象が増えている中で、タグ2隻を要求される機会が増えている。フェリー、沖館のバルク、ENEOSのタンカー、油川の洋上風力とタグボートの奪い合いが起きる可能性がある。
- 県がタグボートを保有するのが難しいことは理解するが、民間がタグボートを建造・保有することに支援をお願いしたい。

【事務局】 タグボートの問題は承知している。船員不足等が要因であるが、県で何ができるか探っていく。

## ● 国の機関

- 東北の広域防災拠点の部分に関し、能登半島地震により半島地域への海からの支援が重要視される中で、下北半島・津軽半島を有する当県では青森港が支援の拠点となることも考えられるため、その機能を追記できるとよい。例えば、資料1（p16）目指す姿1の果たすべき役割に、半島への支援機能を追加してはどうか。

【事務局】 地形的には能登半島に近いと認識しており、今のご指摘について追記する方向で検討する。

- 資料1（p41）の海岸保全・港湾施設の整備は重要であり、長期構想策定後も今後の実現に向けた検討を進めてほしい。
- 今後は洋上風力の工事等で海上交通が増加することが見込まれるので、引き続き、安全確保に取り組んでいきたい。
- 防災危機管理のための官公庁船の集約について、堤川河口部は港湾区域か河川区域か。実施には河川管理者の理解を得る必要があると思うが、そこは得られているのか。

【事務局】 港湾区域内だが、上流を管理する河川管理者とも情報共有を図っていく。

- 二次交通についてはデマンド交通の充実等を謳っているが、運輸局でも交通空白解消本部を立ち上げているところ。クルーズ船寄港時にも必ず二次交通が必要になる。計画が決まってからでなく、前広にご相談等頂ければ幸い。
- 物流機能の強化で、「物資の流通の効率化に関する法律」の認定を取る必要がある場合、円滑な認定のために早めにご相談を頂ければ、協力させて頂く。

● 地元自治体

- クルーズ船の 100 回に向けて様々な取組を行い、それがまちづくりにおける更なる魅力向上に繋がることを期待する。
- 洋上風力の基地港湾の整備が始まり、発電事業者も決まった中で、当市では「しごと創造戦略」を策定して推進しているところであり、経済効果の最大限の獲得を図る。

● 学識経験者

- 資料 1 (p33) クルーズ船寄港時のバス等の二次交通の活用といった表現があるが、ドライバー不足が問題となる中で大型船の 2 隻同時寄港となると、バスのみならず鉄道も積極的に活用することも必要。また、自動運転やスローモビリティは大量に人を運ぶことを前提とされたい。
- 高速道路、貨物駅へのアクセスの書き振りは、将来的に物流拠点を目指すということで承知した。内陸とのつながりは重要なので、引き続き議論をして、良い物流拠点の形成をお願いしたい。
- 今後の港湾計画改訂にあたり、県、市、関係者の連携のもと、新しい青森港が出来ることを期待したい。
- 長期構想のロードマップでは、短期で取り組むものがあるが、一斉に進めるのは大変。優先順位を付けて進めて頂きたい。
- 青森港の施設の半分以上が建設から 50 年以上が経過している。計画的に点検を実施して頂きたい。

● オブザーバー

- 長期構想は 20～30 年を見据えたものであり、今後は、構想を港湾計画に落とし込んでいく作業になる。港湾計画の変更にあたっては、港湾局も必要な技術的支援をさせて頂くので、しっかり進めてほしい。
- 今年の青森港は開港 400 年、Sea 級グルメ全国大会、クルーズ船 50 隻近くの入港など、明るい話題が多い。港湾計画の改訂もこれらの明るい話題の一つとして進めてほしい。